

平成24年度 教科に関する研究  
研究主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

## 図画工作・美術

思考・判断し，表現する力を育てる図画工作・美術科学習指導の展開

－〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を通して－



# 目 次

平成24年度 教科に関する研究

研究主題「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

1	主題について -----	1
2	授業研究	
	【授業研究1】 思考・判断し，表現する力を育てる図画工作科学習指導の展開 ー小学校第4学年「ねん土にまほうをかけたら」における，材 料や用具，友人と関わりながらつくりだす活動を通してー -----	4
	【授業研究2】 思考・判断し，表現する力を育てる図画工作科学習指導の展開 ー小学校第6学年「アートギャラリー東小」における，場所や 材料からイメージを膨らませる活動を通してー -----	12
	【授業研究3】 思考・判断し，表現する力を育てる美術科学習指導の展開 ー中学校第1学年「発信！香るイメージ」における，香りのイ メージを形や色彩で表現する活動を通してー -----	20
3	研究のまとめ -----	28

## 教科に関する研究主題：「思考力・判断力・表現力をはぐくむ学習指導の展開」

平成21・22年度の2年間の研究では、学習指導要領や学校教育指導方針の趣旨を踏まえ、児童生徒に思考力、判断力、表現力をはぐくむことを目指して、創意工夫を生かした特色ある学習指導の研究を行った。平成23・24年度は、先の研究成果を踏まえて、より実践的な内容として、教科ごとに主題を設定し、研究を進めた。

### 図画工作・美術科研究主題

#### 思考・判断し、表現する力を育てる図画工作・美術科学習指導の展開

—〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を通して—

### 1 主題について

#### (1) 図画工作・美術科の目標について

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年8月 文部科学省）（以下「小学校解説」という。）、中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月 文部科学省）（以下「中学校解説」という。）に、図画工作・美術科の目標が次のように示されている。

#### 図画工作科

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、作りだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

#### 美術科

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

（下線は本資料作成者による。）

下線のように、図画工作・美術科では、表現及び鑑賞の活動を通して、基礎的な能力を育成し、豊かな情操を養うことをねらいとしている。

#### (2) 思考・判断し、表現する力を育てることについて

中央教育審議会答申（平成20年1月）（以下「答申」という。）において、図画工作・美術科の改善の基本方針及び改善の具体的事項として、次のような内容が示されている。

創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てることを重視する。

形や色、イメージなどを活用して活動することができるように、領域や項目など

を通して共通に働く資質や能力を〔共通事項〕として示す。

これらの答申や小・中学校解説の目標等を踏まえると、思考・判断し、表現する力は、自分の思いを形や色で表したり、よさや美しさを感じ取ったりする造形的な創造活動の基礎的な能力であり、表現及び鑑賞の活動に共通に働く〔共通事項〕を視点として指導することが重要であると考え。また、これらの能力を具体的に育成するような言語活動を工夫することで思考・判断し、表現する力を育てることができると考え、本主題を設定した。

### (3) 研究の基本方針

平成22年度の研究では、表現及び鑑賞の活動を通して、児童生徒が形や色、材料などに進んで働きかけながら表し、それらのよさや特徴、表現の工夫を説明したり話し合ったりするような言語活動の充実を踏まえた学習指導について研究を行った。その結果、題材の中に、形や色、材料などに進んで働きかけながら表すことができる場や話し合い活動を位置付けたり、学習カード等を活用したりするなどの言語活動を工夫することが、思考・判断し、表現する力を育てるために効果があることが分かった。

本研究では、前回の研究を踏まえ、〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を通して、思考・判断し、表現する力を育てる図画工作・美術科学習指導の展開について、実践的な研究を行う。

具体的には、題材全体を通して〔共通事項〕に視点を当て、言語活動を工夫した指導を展開する。表現では、児童生徒の学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、〔共通事項〕を視点に、児童生徒が考えたことをかいたり伝えたりする活動を位置付け、自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料や用具などを選択し創意工夫して表現できるようにする。鑑賞では、〔共通事項〕を視点に、児童生徒が自分の思いを語り合ったり価値意識をもって批評し合ったりする活動を学習過程に位置付け工夫することで、形や色、材料などによる感じ方の違い、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉えることができるようにする。

なお、〔共通事項〕については、小学校解説、中学校解説に以下のように示されている。

#### 小学校〔共通事項〕（抜粋）

##### 第3学年及び第4学年

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。

イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

##### 第5学年及び第6学年

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

**中学校〔共通事項〕**

第1学年，第2学年及び第3学年

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して，次の事項を指導する。

ア 形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に，対象のイメージをとらえること。

**(4) 主題に迫るために**

ア 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導

〔共通事項〕を視点に，児童生徒が考えたことをかいたり伝えたりする活動を位置付け工夫する。

イ 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導

〔共通事項〕を視点に，児童生徒が自分の思いを語り合ったり価値意識をもって批評し合ったりする活動を位置付け工夫する。

この2点を踏まえ，具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

## 2 授業研究

### 【授業研究1】

思考・判断し、表現する力を育てる図画工作科学習指導の展開  
—小学校第4学年「ねん土にまほうをかけたら」における、材料や用具、  
友人と関わりながらつくりだす活動を通して—

1 題材名           ねん土にまほうをかけたら

### 2 題材の目標

材料や用具、友人と関わり、いろいろな表し方を試しながら、表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に自分のつくりたいもののイメージを膨らませ、形や組合せなどを工夫して表す。

### 3 題材設定の理由

本題材は、手や体全体を十分に働かせて粘土や用具を使い、友人と関わりながら、形や組合せなどのよさや面白さを感じ取り、想像した楽しい世界をつくるものである。材料としては、土粘土(以下「粘土」という。)を扱い、手や体全体を十分に働かせ、感触を確かめながら立体表現を楽しむ題材である。また、身近にある材料を用具として使い、表したいものに合わせて工夫する体験を深める。いろいろな表し方を試したり友人と関わったりしながら、材料や用具からの気づきを深め、自分のイメージを膨らませ、工夫して表すことができる題材であると考え。

形や表現の工夫に関する意識調査(平成24年7月6日実施、調査人数33人)から、粘土で形をつくるときに、粘土べら以外の材料や用具を使ったことがある児童は13人、イメージがもてないときに他の材料や用具を探したり試したりした児童は3人と、材料や用具との関わりが十分ではないことが分かった。

そこで、児童が材料を基に表したいことを発想し、表し方を考えてつくりだすことができるようにするために、粘土の扱いに慣れ、材料や用具、友人と十分に関わりながらつくりだす活動を展開する。まず、導入の段階で粘土に触れ、いろいろな表し方を試す活動を位置付ける。第一段階として、粘土の扱いに慣れ、その感触や可塑性などの特性、友人の表し方の工夫に気づき、よさや面白さを感じ取ることをねらいとした活動を行う。第二段階として、用具を使って試しながら表し、形や組合せなどについての気づきを深める活動を充実させる。次に、製作の段階で、材料や用具、友人と関わる中から生まれた気づきやイメージを基に、表し方を考えてつくりだすことができるようにする。題材全体を通して児童の活動の様子や学習カードの記述を基に一人一人の思いを把握し、自分のイメージをもって活動することができるように指導・助言する。

以上のように、材料や用具、友人と関わりながら形や組合せなどの感じを捉え、自分のイメージを膨らませてつくりだす活動を展開することで、思考・判断し、表現する力を育てることができると考え、本題材を設定した。

#### 4 主題に迫る具体の手立て

##### (1) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導

ア 材料や用具に十分にに関わり、造形的な特徴を捉えて試す学習活動の工夫

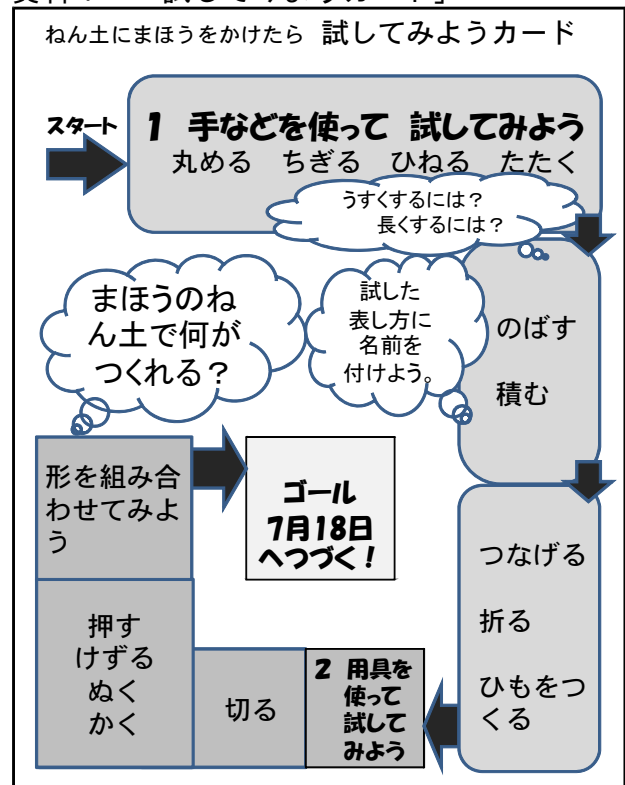
導入の第一段階として、粘土との関わりを重視し、用具を使わずに試すことで、粘土の特性やよさを感じ取ることができるようにする。床の上で活動することで、児童が体全体を使って粘土に十分に関わることができると考えている。扱いやすい軟らかさに練った粘土を一人2kg、自由に使うことのできる粘土を共用粘土として用意する。自分の感覚を通して、粘土の特性やよさを感じ取ることができるように、たくさんの表し方を試す時間を確保する。つくり、つくりかえ、つくり続ける活動を通して、造形的な特徴を捉えイメージを膨らませることをねらいとする。

導入の第二段階として、身近にある網や縄、糸や竹串等を用具として使い、自分からいろいろな表し方を試すことで、用具の使い方を工夫して表した形や組合せなどについての気付きを深めることができるようにする。児童の表したいものは、表現の過程で様々な表し方を試しながら徐々に明確になっていくと考える。表したい形を実現するために、様々な表し方を何かに見立てるなど想像力を働かせながら、つくりたいものに合わせて、用具を選ぶことができるようにする。また、同じ用具でも、使い方を変えることで、新しい表し方ができることに気付くようにする。

新しい形から発想してつくったり次々と形を変化させたりするなど、試しながら自分なりに工夫した表し方に名前を付けたり紹介したりすることで、つくる喜びを味わい、形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながらつくりだすことができるようにする。粘土や用具に関わる行為から得られた感覚を大切に、粘土の感触を体全体を使って十分に試してから用具を使って試す時間を設定することで、手や体全体を使って表すよさと用具を使って表すよさを十分に体験させる。用具コーナーや共用粘土コーナーを設置し、児童が必要に応じて自由に行き来できるようにする。

資料1に、児童が自分からいろいろな表し方を試すことができるようにする「試してみようカード」を示す。すごろくゲームのような形式で活動の順序や表し方のキーワードを示し、多様な表現の気付きを促す。

資料1 「試してみようカード」



イ 自分の活動を振り返り、イメージを膨らませるための学習カードの工夫

児童が自分の活動に見通しをもち、活動を振り返って表したい思いを確認したり、イメージを膨らませたりすることができるように、次ページ資料2に示すような学

習カードを工夫し活用する。いろいろな表し方に出会い自分のイメージを膨らませ、表現を追求する過程で、形や組合せなどの気付きを自分の言葉で記述させる。冊子化し、製作の過程を記録した写真や友人からのメッセージの書かれた付箋を貼付するページを設定する。児童の思考の流れに沿って学習カードを工夫し活用することで、児童が形や組合せなどの〔共通事項〕を視点に、自分の活動を振り返り、イメージを膨らませることができるようにする。さらに、教師が児童一人一人の思いや願いを把握し、思考・判断し、表現する力を育てるための適切な指導・助言に生かす。

## 資料2 学習カード

マイギャラリー・メッセージボード		4年 組 番 名 前											
気に入った写真や友だちからのメッセージカードをはろう。 <b>② まほうのねん土で〇〇ランドをつくろう</b>		<b>まほうのねん土で〇〇ランドをつくろう</b>											
<b>友人と交換したメッセージの書かれた付箋</b>		<b>1 めあて</b> 学習の前に書こう											
<b>学習のめあてを自分の言葉で</b>		<b>2 振り返って</b> 学習を振り返って書こう											
<b>写真</b>		<table border="1"> <tr> <td>自分の思いに合わせて用具を選ぶことができましたか。</td> <td>よくできた</td> <td>どちらかといえはできた</td> <td>どちらかといえはできなかった</td> <td>できなかった</td> </tr> <tr> <td>自分の思いに合わせてつくることができましたか。</td> <td>よくできた</td> <td>どちらかといえはできた</td> <td>どちらかといえはできなかった</td> <td>できなかった</td> </tr> </table>		自分の思いに合わせて用具を選ぶことができましたか。	よくできた	どちらかといえはできた	どちらかといえはできなかった	できなかった	自分の思いに合わせてつくることができましたか。	よくできた	どちらかといえはできた	どちらかといえはできなかった	できなかった
自分の思いに合わせて用具を選ぶことができましたか。	よくできた	どちらかといえはできた	どちらかといえはできなかった	できなかった									
自分の思いに合わせてつくることができましたか。	よくできた	どちらかといえはできた	どちらかといえはできなかった	できなかった									
<b>学習の振り返り</b>		<b>①工夫したこと・楽しかったことは？</b> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>											
<b>形や組合せを視点とした気付きや考え</b>		<b>②友だちの表し方を見たり、話を聞いたりして「いいなあ、おもしろいなあ」と思ったことは？</b> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>											
		<b>③表したい感じになるまで作りながら、気がついたことは？</b> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>											

### (2) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導

#### ア 友人と関わる活動を位置付けた学習過程の工夫

友人の表し方からよさや面白さを感じ取ることができるように、題材全体を通して、友人と関わる活動を位置付ける。自分にはない表し方に出会うことで、形やその組合せによるよさや面白さに気付き、考えを深めることができるようにする。

第1次の活動では、「まほう大集合コーナー」を設置し、友人が試した表し方を全員がいつでも自由に鑑賞できるようにする。毎時間の活動の終わりには、全体やグループで鑑賞し、よさや面白さについて話し合う。気付いたことを付箋に書いて、友人と交換する。形や組合せなどの感じがどう生かされているのかを話し合う活動を通して新たな気付きを促し、その後の発想につなげることができるようにする。

#### イ 話し合い活動を充実させた鑑賞会の設定

第3次には、鑑賞会として完成した作品を紹介する場を設定する。〔共通事項〕を視点に、見て感じたことと友人の話を聞いて気付いたことについて話し合う。自他の作品の形や組合せなどのよさや面白さを捉え、全体やグループで話し合うことで、児童が自分の考えを深めたり新たな視点に気付いたりすることができるようにする。



## 5 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
① 粘土や用具に進んで関わり、つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。	① いろいろな表し方を試しながら、自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。 ② 自分のイメージに沿って「まほうのねん土で〇〇ランド」の形や組合せなどを考えている。	① 粘土や用具、友人の表し方のよさや面白さなど感じ取ったことを基に、形や組合せなど、表し方を工夫している。	① 自他の表し方の工夫や友人の作品への思いに気付き、よさや面白さを感じ取っている。

### (2) 指導と評価の計画（5時間扱い）

次	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準(方法)	[共通事項] の視点
1	① ②	○粘土に触れ、いろいろな表し方を試す。 ・手や指、掌などを使って試す。 ・用具を使って試す。 ・表し方に名前を付ける。 ・試した表し方を紹介し合う。	関-①（観察） 発-① （観察、対話、学習カード）	自分の感覚や材料や用具、友人と関わる活動を通して形や組合せなどの感じを捉え、自分のイメージをもつ。
2	3 4	○粘土のよさや表し方の面白さが生かせるように工夫して「まほうのねん土で〇〇ランド」をつくる。 ・試したことや気付いたことを生かして用具を使い、工夫して表す。	技-① （観察、作品） 関-① （観察、対話） 発-② （観察、対話）	粘土や用具の特性を生かした形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながら、自分のイメージを膨らませる。
3	5	○自他の作品のよさや面白さを感じ取る。 ・友人と話し合いながら活動を振り返り、学習カードに感想を書く。	鑑-① （観察、学習カード）	形や組合せなどの感じを捉え、よさや面白さを感じ取る。

### (3) 本時の学習

#### ア 目標

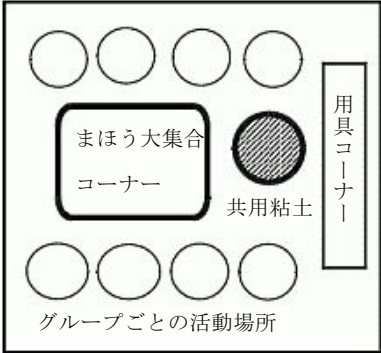
粘土や用具、友人に関わり、いろいろな表し方を試しながら、自分のつくりたいものの形や組合せなどを思い付くことができる。

#### イ 準備・資料

教師…粘土、粘土板、シート、竹串、網、糸、貝殻、紙皿、油性ペン、学習カード、バケツ等

児童…へら、つまようじ、割り箸、フォーク、スプーン、クッキー等の抜き型、網、糸、ぞうきん、筆記用具等

ウ 展開 (第1・2時)

学習活動・内容	指導上の留意点, ◎評価, ◇言語活動の工夫, <u>~~~~</u> は〔共通事項〕の視点から
<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ねん土にまほうをかけよう。</div> <p>2 粘土の扱いに慣れ表し方を試す。</p> <p>○ 手や指, 掌を使って</p> <p>(1) 形をつくるまほう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丸める, ちぎる, ひねる等</li> <li>(2) 高くするまほう           <ul style="list-style-type: none"> <li>・伸ばす, 積む, 並べる等</li> </ul> </li> <li>(3) 自分で考えたまほう</li> </ul> <p>○ 用具を使って</p> <p>(1) 薄くするまほう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切る, 削る, のす等</li> <li>(2) 模様をつけるまほう           <ul style="list-style-type: none"> <li>・押す, かく等</li> </ul> </li> <li>(3) 自分で考えたまほう</li> </ul> <p>○ 組み合わせて</p> <p>〈体育館の学習環境図〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <p>3 友人の表し方のよさや面白さについて話し合い, 付箋に書いて交換する。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>5 後片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘土でつくった面白い表し方を提示することで, 本時の活動への意欲を喚起する。</li> <li>・粘土の基本的な扱い方を確認し, 前半は手や指など体全体を使い, 楽しみながら表し方を試すことができるようにする。</li> <li>・後半はいろいろな用具の使い方を例示し, <u>形や組合せなどのよさや面白さ, 工夫についての視点を捉えさせる。</u></li> <li>・何度もつくり直したり, 用具を試したりしてもよいことを伝え, 主体的な活動を促す。</li> <li>・体全体を使って多様な表し方を安全に試せるように, 用具の使い方や活動場所について助言する。</li> </ul> <p>◎粘土や用具に進んで関わり, つくったり見たりする活動を楽しもうとしている。〈造形への関心・意欲・態度〉(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が滞りがちな児童には, 友人が使った用具を試したり, 友人と一緒につくったりするよう助言する。</li> <li>・新たな発想や表し方に向かう姿勢を認め, 紹介する。</li> <li>・用具を友人と交換してもよいことを告げ, 友人と関わりながら, <u>友人の表し方の形や組合せなどのよさや面白さを感じ取り, たくさん試すことができるようにする。</u></li> </ul> <p>◇各自の表し方に名前を付けて, まほう大集合コーナーに展示し, 自由に見たり話し合ったりして, <u>形や組合せなどのよさや面白さを感じ取りながら活動できるようにする。</u></p> <p>◎粘土や用具, 友人に関わり, いろいろな表し方を試しながら <u>自分のつくりたい形や組合せなどを思い付いている。</u></p> <p>〈発想や構想の能力〉(観察, 対話, 学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいものが思い浮かばない児童には, まほう大集合コーナーの作品を参考に, <u>形や組合せなどが面白いと感じるものを試してみるよう助言する。</u></li> <li>・試したものをグループごとに持ち寄ることが容易にできるように紙皿を活用する。</li> </ul> <p>◇友人の工夫している点や <u>形や組合せなどのよさや面白さが感じられる表し方</u>について付箋に記入し話し合うことで, 自分のこれからの表現や次時の学習の手掛かりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の成果を認め, 次時の学習に生かすことができるようにする。</li> <li>・粘土の保管や用具の安全な片付けの仕方について指導する。</li> </ul>

## 6 分析と考察

### (1) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導

ア 材料や用具に十分にに関わり、造形的な特徴を捉えて試す学習活動の工夫

導入の第一段階に行った、粘土に触れ試す学習では、大量の粘土に向き合い、体全体を使って試す様子や、形の特徴を何かに見立ててつくり続ける様子が見られた。学習カードの記述からは、材料に関わる行為から得られた感覚や、粘土の手応えを確かめながら思考し、試している様子を読み取ることができた。体全体を使って床の上で力を入れて試す様子や、机の上でじっくりといろいろな角度から見ながら試す様子が見られた。また、すごろくゲームのように活動の順序を示した「試してみようカード」を活用したことで、最初から用具を使わず、手や指、掌や足など体全体を使っていろいろな表し方を考えながら試し、粘土の特性を生かし、できた形のよさや面白さを十分に感じ取ることができていた。

第二段階では、用具コーナーや共用粘土コーナーを設置し、材料や用具を豊富に用意したことで、児童が自分の思いに合わせて粘土を使ったり、用具を自由に選んだりすることができ、思い付いたことを次々と試す様子が見られた。「まほう大集合コーナー」を設置し、自由に行き来できるようにしたことで、児童同士の交流と情報交換が行われた。資料3は網を使って粘土を押し出して形をつくることを試している様子と紙皿に「まほう」の名前を書いている様子、形の面白さから発想したまほう「あなあきすぎくん」と児童の学習カードの記述である。

#### 資料3 試す様子と紙皿に書いた「まほう」の名前、学習カードの記述



次ページ表1は、本題材学習前と学習後に行った形や表現の工夫に関する意識調査の結果である。質問1の結果を学習前と学習後で比較すると、粘土の特性を生かして豊かな発想をし、手などを十分に働かせ表し方を工夫することへの児童の意識が高まっている。これは、材料や用具に十分にに関わり、〔共通事項〕を視点に造形的な特徴を捉えて試す学習活動を通して、創意工夫して表すことができるようになったためと捉えることができる。また質問2の結果からは、自分のつくりたいもののイメージを教科書の参考作品等に依存するのではなく、材料や用具と関わる中から生まれた気付きを基に、友人と交流しながら自分なりの表し方を考え表すことへ意識が変わったと捉えることができる。観察からも、友人と交流しながら、自分の表し方や友人の活動のよさや面白さを感じ取り、工夫して表す姿が多く見られた。

これらのことから、児童が自分で用具を選択し試しながら、材料や用具の特性を捉え表したい形や組合せを思い付き、つくり続けていったことが分かる。

イ 自分の活動を振り返り、イメージを膨らませるための学習カードの工夫

題材を通して活用した学習カードの児童の記述を資料4に示す。導入の活動についての記述からは、①のようにいろいろ試しながら充実感を味わったり、②のように次時への意欲が高まったりしている様子が分かる。製作の活動についての記述からは、③のように一つの用具で二通りの表し方を思い付き試したことが分かる。授業のまとめについての記述からは、④のように友人と認め合うことで、充実感をもつことができた様子が分かる。

他にも、材料や用具に自分から関わったことでいろいろな表し方に出会い、イメージを膨らませ、形や組合せなどのよさや面白さに気付いたことが分かる記述が多く見られた。また、学習カードに貼付した写真や付箋から、次時の課題をもったり意欲を高めたりする児童が多く見られた。

学習カードを工夫し活用したことは、児童が形や組合せなどの〔共通事項〕を視点に、自分の活動を振り返り、イメージを膨らませることができるようにするために効果があったと考える。

## (2) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導

ア 友人と関わる活動を位置付けた学習過程の工夫

導入の段階では、次ページ資料5のように「まほう大集合コーナー」で友人の表し方を鑑賞する時間を設けた。学習カードの記述①のように、形から何かに見立て、表し方のよさに気付いたり、②のように友人の表し方のよさを取り入れ、新しい表し方を考えたりしていたことが分かる。また、毎時間の活動の終わりに、全体やグループで形や組合せなどのよさや面白さを話し合う活動を位置付けたことで、新たな気付きを生み、その後の発想や構想につなげることができたことを学習カードや付箋の記述からも読み取れた。製作の段階でも、友人と関わることを通して気付いたことを生かし、自分のイメージを膨らませ、用具や表現方法を選択する姿が多く見られた。

友人と関わる活動を位置付けたことで、自分にはない表し方に出会い、形やその組合せなどのよさや面白さに気付き、考えを深めることができたと考える。

表1 形や表現の工夫に関する意識調査

(前：平成24年7月6日，後：平成24年7月19日実施，第4学年1組33人)

質問・回答項目	人数	
	前	後
1 粘土で形をつくるときどんな表し方を工夫していますか。(複数回答)		
手でひもをつくる	26	33
手でのばす	31	33
手でちぎる	27	33
手で丸める	30	33
粘土べらで切る	31	33
積み上げる	26	33
粘土べら以外の材料や用具を使う	13	33
その他(指で跡をつける，ねじる)	11	33
2 つくりたいイメージがもてなかったり表し方が分からなかったりしたときどうしますか。	前	後
教科書を見る	13	6
先生に聞く	11	9
友人に聞く	5	9
他の材料や用具を探す，試す	3	11
そのまま何もしない	1	0

資料4 学習カードの記述

<b>導入の活動について</b> ・ぐうぜんおもしろいもようができた。 <u>粘土でなら何でもつくれるんだと思った。</u> ① ・ <u>もっとちがう用具をさがしたい。</u> ②
<b>製作の活動について</b> ・ <u>もようを付けるだけでなく，ぬき型みたいに粘土を切って使う方法を発明した。</u> ③ ・粘土は水でやわらかくなることが分かった。
<b>授業のまとめについて</b> ・Bさんが，わたしが使っていた用具がよかったと書いてくれて，うれしかった。 ・説明していないことを <u>分かってくれたのが，うれしかった。</u> ④



## イ 話し合い活動を充実させた鑑賞会の設定

鑑賞会では、第一段階として、見て感じたことを水色の付箋に書いて交換し、第二段階として作品の紹介をし合い、友人の話聞いて分かったことや感じたことを桃色の付箋に書き交換し、話し合った。資料6は児童の作品（部分）と友人からの付箋の記述である。付箋には形や組合せから感じ取ったことや気付いたこと、接合の工夫などについての記述が見られた。また、友人の話聞くことで、見ただけでは分からない友人の思いや工夫に気付き、新たな視点をもつことができたことが分かる。

〔共通事項〕を視点に話し合い活動を充実させた鑑賞会を設定したことで、児童が形や組合せ、友人のイメージを言葉と結び付けながら、共感的に作品のよさや面白さを感じ取ることができたと考える。

## 7 授業研究の成果と課題

材料や用具に十分にに関わり、造形的な特徴を捉える場を設定したことで、児童は用具を選択し試しながら材料や用具の特性を捉え、表したいことを思い付き、創意工夫して表すことができた。また、学習カードを活用し、自分の行為や感じたことを言葉で表すことにより、自分のイメージを膨らませることができた。

友人と関わる活動を位置付けたり鑑賞会を充実させたりしたことで、形や組合せ、イメージを言葉と結び付けながら、共感的に作品のよさや面白さを感じ取ることができた。

表現と鑑賞を通して、〔共通事項〕を視点に形や組合せのよさや面白さ、特徴などの気付きや表現方法の工夫について、書いたり話し合ったりする言語活動を工夫した学習を展開したことは、自分なりのイメージを基に、思考・判断しながら表現する力を育てる手立てとして効果があったと考える。

今後は、〔共通事項〕を視点とした学習指導の展開について更に研究を進め、他教科との関連を図りながら、児童が、身の回りの生活の中からよさや面白さを感じ取り、それを友人同士で共有することのできる指導を工夫していきたい。

## 資料5 「まほう大集合コーナー」の様子と学習カードの記述



- ・金網を使って、メロンパンみたいのできるのがおもしろいまほうでした。①
- ・Cさんのふしぎなきのこを見て、私はちがう用具でどくきのこをつくってみました。②

## 資料6 児童の作品（部分）と友人からの付箋の記述



「まほうつかいの夢ランド」

### 水色の付箋

- ・細長い形や丸い形がいっぱいあって、きよ大なタワーに見える。

### 桃色の付箋

- ・まほうつかいが帰ってきてねむる部屋がたくさんあって、わたしもとまりたいなと思った。



「スカイタワー」

### 水色の付箋

- ・手形が土台になって細いところもしっかり付いている。
- ・手のあとが貝がらの形になっていてかわいい。

### 桃色の付箋

- ・ふしぎな道を通って中へ入れる工夫が分かってびっくりした。

## 【授業研究 2】

思考・判断し、表現する力を育てる図画工作科学習指導の展開  
ー小学校第6学年「アートギャラリー東小」における、場所や材料からイメージを膨らませる活動を通してー

1 題材名           アートギャラリー東小

### 2 題材の目標

場所や材料に働きかけつくりたいもののイメージを膨らませ、材料や用具を選択し、自分の思いを工夫して表す。

### 3 題材設定の理由

本題材は、児童が普段生活している学校の教室や廊下を活用し、気に入った場所に自らつくり上げた作品を配置することで理想の空間を表現するというものである。小学校解説の高学年の内容「A表現」（2）のAに、「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見つけて表すこと」とある。「感じる」、「想像する」、「見る」、「伝え合う」といった行為は、表したいことの基となるイメージの形成と深い関わりをもつ。児童がよりよいイメージを形成し、創造性豊かな表現及び鑑賞の活動を行うためには、四つの行為が充実し、心に深く浸透するための対象が必要となる。高学年は、自己を中心とした表現から、ものや活動場所との関わりの中で自分の思いや考えを見いだす力や表現する力が育成される時期である。よって、材料や場所といった対象の特徴や、そこから感じ取ったことを基につくりだす活動を充実することが、造形的な創造活動の基礎的な能力の育成につながると考える。

本校は、2年前に新校舎が完成し、生活しやすく創造性を豊かにすることのできる環境にある。しかし、場所や材料に関する意識調査（平成24年6月19日実施、調査人数36人）から、これまでに使った材料を10種類以上挙げられた児童は6人、生活する中で、形や色などを視点に感じ取ったことを作品づくりに生かそうと考えたことがある児童は3人、お勧めの場所があると回答した児童は5人と少なかった。このことから、本学級の児童は、材料の活用経験や意識、場所への関心が低いことが明らかになった。

そこで、本題材では、材料の種類を増やし選択の幅を広げることで、発想や構想の能力を高める。場所においては、校舎全域を表現及び鑑賞の対象とし、「感じる」、「想像する」、「見る」、「伝え合う」活動を充実することで、イメージを膨らませることができると考える。そして、題材全体を通して、〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した指導を展開し、児童が場所や材料の形や色、動きや奥行きなどのよさや美しさを感じ取りながら表現及び鑑賞の活動を行うことができるようにする。

以上のように、児童が積極的に場所や材料に働きかけ、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴を基に自分のイメージをもち、材料や用具を選択し工夫して表す活動を通して、思考・判断し、表現する力を育てることができると考え、本題材を設定した。

#### 4 主題にせまる具体の手立て

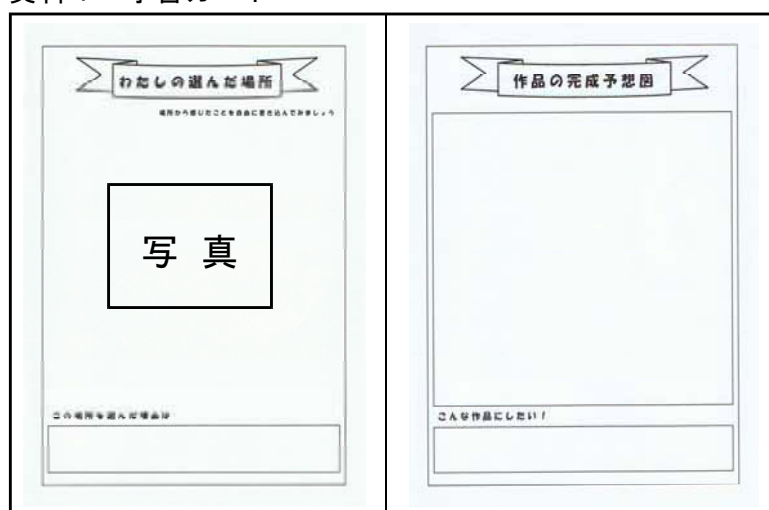
##### (1) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導

###### ア イメージから言葉を引き出す学習カードの工夫

本題材は、場所の特徴を生かし、材料を選択しながら自分の思いを可視化させるものである。そのため、選んだ場所の形や色、動きや奥行きなどの特徴や、そこから生じるイメージが明確でないと「思うようにつくれない。」、「場所と作品が合わない。」といった活動の停滞や意欲の低迷、作品と場所との不調和につながるおそれがある。そこで、形や色、動きや奥行きなどの特徴やイメージをより明確にし、製作へとつなげさせていくための手立てとして、学習カードを工夫し、効果的な活用を目指す。形や色などの特徴やイメージを言葉として表す活動を充実し、製作へ向けての自分のイメージの形成と定着を図ることで、思考・判断する力を育てることができると考える。

###### 資料1 学習カード

資料1は、その学習カードの一部である。左側には自分の選んだ場所の写真を貼り、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴を自由に記述できるスペースを広く設けることで、深く場所に関わり自分のイメージを膨らませることができるようにする。右側にはイメージを具体化するスペースを充実し、左側の写真や記述内容を見ながらアイデアスケッチをしたり、使用する材料や表現意図などを言葉で表したりすることで、場所や材料から膨らませたイメージをより明確にし、思いに合った表し方ができるようにする。



###### イ 形や色、動きや奥行きなどからのイメージを伝え合う場の工夫

本題材は場所からのイメージ形成に重点を置いている。そこで、自分のイメージをより確かなものにする手立てとして、場所の形や色、動きや奥行きなどから捉えたイメージを友人に伝え、意見や感想をもらう場を設定し工夫する。

具体的には、資料1に示す学習カードへの記載を基に、製作活動の前に4人程度のグループを作る。そして、個々の選んだ場所の特徴や、その場所に展示する作品の製作意図等の説明や意見交換を行う。「このような場所から」、「このようなことを感じるので」、「このような作品をつくり展示したい。」など、自分の言葉でグループの友人に説明することで、イメージが整理され明確なものとなり、製作への方向性や自信を見いだすことができると考える。

また、友人の発表、意見、感想等を聞くことで、形や色、動きや奥行き、イメージに関する幅広い見方や考え方を養い、発想や構想の能力の向上につなげることができると考える。

## (2) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導

### ア 導入における、言葉とイメージを結び付ける鑑賞活動の工夫

場所からのイメージ形成をねらいとするには、場所に働きかけることがどのようなことなのかを児童に理解させる必要がある。そこで、導入に鑑賞活動を位置付け、場所に関わる際の視点（形や色、動きや奥行きなどへの造形的な関わり方）や、場所と作品との関わりについて、資料を参考にして全体で話し合う場を設ける。具体的には対話型鑑賞を行う。教師の発問に対して、児童が感じたことや考えたことを言葉で伝える活動を通して、言葉とイメージがつながっていくものとする。

場所への造形的な関わり方については、校舎内のいくつかの場所を例に、「形や色から感じたこと、考えたことはないか。」といった問い掛けから、児童の自由な意見を引き出し、形や色、動きや奥行きなどを視点とした幅広い見方や考え方を養えるようにする。また、場所と作品の関わりについては、同所で撮影した2枚の写真（1枚は作品が展示されているもの）を見比べ、「作品があるときとないときではどう感じが違うか。」といった内容で話し合いを進めるようにする。

さらに、野外アートやインスタレーションの作品にも触れ、場所と作品の調和や、作品の効果について知り、よさや美しさに気付かせることで、鑑賞の能力を高め、表現の活動に生かすことができると考える。

### イ 鑑賞会「アートギャラリー東小」における場所への働きかけの工夫

製作後の作品の鑑賞においては、児童が自分で選んだ場所に作品を展示し、校舎全体を鑑賞の場とする。そして、最後の鑑賞会を「アートギャラリー東小」と称して、児童が校舎内を自由に移動し、自分や友人の作品を鑑賞できるようにする。

鑑賞の際には、作品だけではなく、作品の展示されている場所にも視点を置き、場所と作品の双方に働きかけることで、場所や作品の形や色、動きや奥行きなどのよさや美しさを感じ取ることができるようになる。

また、作品の展示場所が記載された校舎内の地図を学習カードに添付したり、表現意図を伝えるキャプションをつくったり、他学年の児童や教師にも紹介したりすることで主体的な鑑賞活動となり、思考・判断し表現する力を育てることができると考える。

## 5 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
① 場所や材料に能動的に働きかけ、自分の思いに合った作品をつくったり見たりすることを楽しもうとしている。	① 選んだ場所の特徴からイメージを膨らませ、つくりたいものの形や色を考えている。	① イメージに合った材料や用具を選択し、適切に扱いながら、表し方を工夫している。	① 身の回りの場所や作品から、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴を捉えている。 ② 作品の形や色、場所との関わり方のよさや美しさを感じ取っている。



(2) 指導と評価の計画（9時間扱い）

次	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準（方法）	〔共通事項〕の視点
1	1	○作品と場所、材料との関わり合いを知る。 ・対話型鑑賞を行う。 ・インスタレーションや野外アートについて知り、感じたことを発表し合う。	鑑－① （観察、対話）	場所や作品の形や色、動きや奥行きなどを話し合い、よさや面白さに気付く。
2	2 3	○場所から受けるイメージを大切に し、作品の構想を練る。 ・学校の敷地内を自由に散策し、作品を置きたい場所を見付ける。 ・集まった材料を自由に見たり触れたりする。 ・材料の特徴や、新しい表現方法を知り、それらの生かし方を考えたり体験したりする。 ・場所や材料に能動的に働きかけ、選んだ場所をよりよくするための作品の構想を練る。	関－① （観察、学習カード、対話）  発－① （観察、学習カード）	場所の特徴を基に、自分のイメージをもつ。  様々な材料に触れて形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。
3	④ ⑤ 6 7	○自分の思いに合った材料や表現方法でつくりたいものをつくる。 ・アイデアスケッチを基に、自分の思いに合った材料や用具を選択したり、表現方法を工夫したりしてつくる。	関－① （観察、対話） 創－① （観察、対話、作品）	自分の感覚や活動を通して形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴を捉えて表す。
4	8 9	「アートギャラリー東小」 ○選んだ場所に作品を置き、自他の作品のよさや美しさを感じ取る。 ・各自が選んだ場所に作品を置く。 ・鑑賞会をして、全体で意見交換を行う。	鑑－② （観察、対話、学習カード）	作品の形や色、動きや奥行きなどの特徴を捉え、場所との関わり方のよさや美しさに気付く。

(3) 本時の学習

ア 目標

場所や材料から膨らませたイメージを基に、材料や用具を選択し、楽しみながら自分の思いを工夫して表すことができる。

イ 準備・資料

教師…掲示資料、のこぎり、金づち、釘、電熱カッター、ホットボンド、木工用ボンド、用紙類、針金、清掃確認カード等

児童…収集した材料、学習カード、はさみ、のり、コンパス、定規、色鉛筆等

ウ 展開（第4・5時）

学習活動・内容	<p>・指導上の留意点，◎評価，◇言語活動の工夫，〰は〔共通事項〕の視点から</p>
<p>1 本時の学習課題について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>場所からのイメージやアイデアスケッチを基に，材料や用具の使い方や，表し方を工夫して自分の思いに合った作品を楽しくつくろう。</p> </div> <p>2 これから製作する作品についてグループで話し合う。</p> <p>(1) アイデアスケッチを基に，作品について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この場所から</li> <li>・このようなことを感じるので</li> <li>・このような作品をつくって展示したい。</li> </ul> <p>(2) 意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人の説明を聞いて意見を述べ合う。</li> </ul> <p>3 場所からのイメージを基に，材料の選び方や表し方を工夫して，自分の思いに合った作品をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>5 後片付けをする。</p>	<p>・前時の<u>形や色，動きや奥行きなどを視点に</u>，自らが選んだ場所や，アイデアスケッチを基に，材料や用具を選んで製作活動をしていくことを確認する。</p> <p>◇選んだ場所の写真や意図，アイデアスケッチなどについて<u>形や色，動きや奥行きなどを視点に，互いに見合ったり説明し合ったり</u>することで，活動の幅の広さを感じ取らせるとともに，製作への関心をもたせたい。</p> <p>・児童が自由に話し合うことができる場の雰囲気作りを心掛ける。</p> <p>◇〔共通事項〕の視点として，<u>形や色，動きや奥行きなどの具体的な気づきを話し合わせる</u>ことで，友人の意見に共感したり，新たな気づきから構成に修正を加えたり材料を変更したりすることができるようにする。</p> <p>・様々な材料を種類別に分け，共有できるスペースを設けることで，製作に幅をもたせる。</p> <p>◎材料に能動的に働きかけ，自分の思いに合った作品をつくることを楽しもうとしている。</p> <p style="text-align: center;">＜造形への関心・意欲・態度＞（観察，対話）</p> <p>・材料への働きかけが見られない児童には，対話をしながら表したいことを確かめ，共に材料を選んだり友人の様子を参考にしたりするよう助言をする。</p> <p>・材料や表現方法において新たな発見があり，構成を一部変更したいという場合には，状況に応じて認めるようにする。</p> <p>◎イメージに合った材料や用具を選択し，適切に扱いながら，表し方を工夫している。</p> <p style="text-align: center;">＜創造的な技能＞（観察，対話，作品）</p> <p>・思うように製作が進まない児童には，学習カードを活用し本時の内容を再確認させる。また材料と向かい合う時間を多く取らせることで，製作への意欲や新たな発想を促したい。技能面については教師と一緒に練習して定着させる。</p> <p>・<u>形や色，動きや奥行きなどのよさや美しさ</u>が感じられる表し方や学習カードの記述内容を紹介し，次時の学習の手掛かりとする。</p>



## イ 形や色、動きや奥行きなどからのイメージを伝え合う場の工夫

イメージ形成後における伝え合いや意見交換の場では、児童が選んだ場所の形や色、動きや奥行きなどの特徴、選んだ理由、場所から受けるイメージ、つくりたい作品や表現意図などについて分かりやすく説明する様子が見られた。また、友人の説明を聞き、「このような作品の形にしたのはなぜですか。」、「ここはどのようにしてつくるのですか。」など、更に詳しく知りたいことを進んで発言する様子も見られた。友人の説明や意見から新たな発見をする児童もいた。自分で気付かなかった場所の形や色、動きや奥行きなどの特徴やよさに気付いたり、多様な表現方法を知ったりすることで、幅広いものの見方や考え方が養われ、発想や構想の能力の向上につなげることができたと考える。

## (2) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導

### ア 導入における、言葉とイメージを結び付ける鑑賞活動の工夫

身近な環境を鑑賞の対象として扱い、対話型鑑賞を行うことで、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴の捉え方や、場所と作品の関わりについて理解を深めることができた。

はじめに、校舎内の写真を見て、それぞれの場所で気付くことや感じることはないかを問い掛けた。「暗い色が多い。」、「光が明るい。」など、色や光に関する返答はあったが、それ以上の広がりにはなかった。そこで「どんな形からできていて、どんな感じを受けるか。」、「温度の感じはどうか（寒色や暖色との関連）。」など、形や色、動きや奥行きなどへ意識を向けさせる発問を段階的にしていったことで、徐々にものの見方や感じ方に広がりが生じてきた。「平らな面が合わさってできていて、静かで冷たい感じがする。」、「角ばっているところが多いので、力強く丈夫な感じがする。」、「温かい感じの色が使われている。」など、〔共通事項〕を視点とした発言が多く見られた。最初は難しさを感じていた児童も、友人の発言を聞く中で、場所への関心をもち理解を深めることができた。このような対話型鑑賞を行ったことで、児童の鑑賞の能力に高まりが見られたことが学習カードの記述からも読み取れた。

また、野外アートやインスタレーションの写真を提示し、場所を作品の一部として扱えることや、場所から発想し、場所をよく見せるための作品づくりの方法を話し合うことで、今後の活動に方向性をもたせることができた。

場所の特徴やイメージを言葉で伝えたり話し合ったりする様子や、授業後の学習カードの記述から、導入において〔共通事項〕を視点に、言葉とイメージを結び付ける鑑賞活動を行ったことは、児童が場所への関わりを深め、よさや美しさに気づき、表現に生かすために効果があったと考える。

### イ 鑑賞会「アートギャラリー東小」における場所への働きかけの工夫

鑑賞会は、児童が選んだ場所に作品を展示する準備から始まった。場所と作品とがどれだけ調和し、見る人に自分の思いを伝えられるかを考え、作品の微妙な方向に注意を払いながら展示する様子が見られた。展示のために台を使いたいという児童は、布等を使用し、美術館の雰囲気味わうことができるような工夫をしていた。場所や作品のイメージに合わせて布の色や材質を選ぼうとしている姿が多く見られ、場所という対象に基づく学習であるという意識が児童に浸透していることが感じられた。

自分の思いを言葉で伝える手段として、キャプションをつくり、作品の近くに設置するようにした。場所をよりよく見せたいという気持ちや、作品への思いを一生懸命記述する児童の姿が多く見られた。資料3は児童の作品の例である。この児童は、校舎の2階にあるテラスに関心を持ち、植物の形や色、風の動きや奥行きの特徴を捉え、美しさを感じ、場所をよりよく見せるための工夫を考え作品を製作した。鑑賞会に向け、作品の向きや台の色など、細かな部分にも気を配り展示をした。

作品は一定期間展示し、本学級の児童だけではなく、全校児童に見てもらおう機会を設定し、場所と作品のよさや美しさを味わってもらえるようにした。どの学年の児童も興味を示し、「すごい。」といった感動の声や、キャプションを大きな声で読み上げる声を校舎のいたるところで耳にすることができた。キャプションをつくったことは、場所や作品をより深く感じ取るために効果的であった。

これらのことから、児童が選んだ場所へ作品を展示する「アートギャラリー東小」の展開は、児童の思考・判断し、表現する力を育てることに有効であったと考える。同時に、新校舎のよさや美しさを多様な視点から味わうことで、生活の場への関心も高められたものとする。

### 資料3 展示した作品とキャプション



作品名 「レインボーフラワー」

自然の色や光、風的美しさが感じられる場所をさらにさわやかに見せるために、花の明るさややさしさをイメージしてつくりました。

## 7 授業研究の成果と課題

場所や材料の形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴に目を向けさせ、それらの表現要素に深く関わりをもたせることで、「見る」、「感じる」、「想像する」活動が充実し、創造性豊かな表現及び鑑賞の活動へとつながった。学習カードの活用も、イメージを膨らませたり、自分の思いや製作の方向性を確認したりする上で効果があった。また、自分のイメージや表現意図を伝え合う場を充実することにより、形や色、動きや奥行きに対する感じ方の違いに気付くとともに、自分が形成したイメージをより明確にすることができた。校舎全体を美術館に見立てた鑑賞会や、キャプションも同様の効果があった。これらのことから、〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した本題材の指導は、児童の思考・判断し、表現する力を育てることに有効であったと考える。

今後の課題は、児童が学んだことを次の学習に生かすことができる計画的、系統的な指導体制を充実することにある。本題材では、「場所への関わりからイメージを膨らませる活動」については効果があったが、創造的な技能に関しては課題が残った。材料の特性を生かして組み合わせたり、接着・接合の仕方を工夫したりすることが十分にできていなかった。これは、前学年までに学習したことが身に付いていないからではないかと考える。学校内だけでなく中学校美術科教師との連携を図り、児童生徒の実態に基づく題材の開発や指導の成果や課題などについての情報を交換したり、共同で研究を進めたりして、段階的に資質や能力を高めていくことが重要であるとする。



## 【授業研究3】

### 思考・判断し、表現する力を育てる美術科学習指導の展開 ー中学校第1学年「発信！香るイメージ」における、香りのイメージを形 や色彩で表現する活動を通してー

#### 1 題材名 発信！香るイメージ

#### 2 題材の目標

自然物の造形のよさや美しさ、面白さから感じ取った香りのイメージを、形や色彩、材料の組合せ等における様々な表現方法を試しながら追求し、自分の思いにこだわって表現する。

#### 3 題材設定の理由

本題材は、自然物から感じ取ったイメージを基に構想を練り、絵の具で表現するものである。中学校解説における第1学年の「A表現」（2）ア及びイでは、自分の思いや目的、条件などを基に、他者の立場に立った分かりやすく美しい構成について発想し構想を練ることをねらいとしている。アでは、構成の要素や色彩の美しさが、イでは、伝達する他者を意識した表現の効果における客観的な見方や捉え方が指導事項となっている。自分の思いを単に表現するだけでなく、鑑賞会などの交流を通して他者の考えを意識することで、自分の表現を見つめ直し、試行錯誤しながら既習の基礎的・基本的な知識や技能を活用した構想を練ることへと段階的に進めることが重要である。

美術に関する意識調査（平成24年7月5日実施、調査人数36人）から、美術の授業でアイデアを考えることが難しいと感じている生徒が25人、アイデアを考えるときに困ることとして、イメージはあるのにどう絵や言葉で表現したらよいか分からない生徒が18人と、技能よりも、発想や構想に関する課題があることが分かった。また、授業観察からは、鑑賞活動において、作品のよさや美しさ、面白さを素直に味わうことはできるが、根拠を基に自分の考えを伝えることができていないことを確認している。

そこで、本題材では、自然物から感じ取ったイメージを基に構想を練り、完成した作品を鑑賞するときに作品から香りを感じさせるような形や色彩を工夫して表現することをねらいとする。自然物の中には実際に香りを感じないものもあるが、現実の香りではなくイメージとして香りを捉えさせることで、既成の形や色彩にとらわれず、香りのイメージに起因した形や色彩を追求し、自分の思いを膨らませる手立ての一つとしたい。また、完成した作品には「開く」という動きを取り入れ、鑑賞する人が作品を開いたときに香りを実感できるような構想を練らせたい。鑑賞する側を意識することは、自分の思いをより明確にし、どのような形や色彩にしたら自分の思いを伝えられるかと絶えず思考・判断を繰り返しながら表現方法を追求できると考える。さらに、鑑賞する側も、形や色彩を視点に香りを感じ取ろうとすることで、より深く作品のよさや美しさ、面白さに迫ることができると考え、本題材を設定した。

#### 4 主題に迫る具体の手立て

##### (1) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導

###### ア 形や色彩、香りのイメージを話し合う活動の工夫

色彩や構成における基礎的・基本的な知識を基に、色彩のもつイメージから自然物のよさや美しさ、面白さを感じ取り、表現する活動に発展させる。そのため、題材の導入では一人一人の感じたイメージを「色紙カード」を使って表現したり、イメージから考えられる色づくりをしたりする活動を取り入れる。

まず、オノマトペ（擬音語、擬声語、擬態語）をはじめとする状態や動きを表す言葉を提示し、「色紙カード」を基に、生徒一人一人が感じたイメージをグループで話し合う。色彩から感じたイメージを簡単な言葉で表現させ、楽しみながらイメージを捉えることができるようにする。

次に、イメージに合った香りを想像させ、それを色彩で表す活動を取り入れる。色彩が浮かばない生徒には、できた色彩から香りやイメージを考えさせ、言葉に表現させる。形についても、「甘い」や「酸っぱい」、「苦い」などの言葉からどんな形をイメージするか、四角形や三角形、丸などの形、曲線や直線などを参考にしながら話し合う活動を取り入れる。自分のもつイメージを言葉で表現したり、言葉から形や色彩をイメージしたりする経験は、構想を練るときに自分の思いを明確にし、思考を助ける有効な手段の一つになると考える。また、互いが示したカードの違いから、一人一人が感じ取るイメージには違いがあり、誰もが間違いでないことを確認することによって、安心して自分の感じたことを表現できる場をつくりたい。生徒が抱く色彩や香りのイメージは生徒の生育歴やこれまでの体験に関わるものでもあるため、思いを損なわないよう十分に配慮し、授業や学習カードのコメントを通して丁寧な言葉掛けを行っていく。

###### イ 言葉からイメージを引き出す場の工夫

香りを意識させた制作活動に移行する導入として、様々な場面や物からイメージする香りを基に「色彩カード」を作成する。状態や心の動きをより明確に示す手段として、オノマトペに着目させる。生徒が考えたオノマトペはパネルに展示し、自由に分類できる場を設定することにより、イメージを引き出す場になると考える。学習カードには、毎時間の授業を通して気付いたことや考えたことを「発見・感想 Tweets」として記入させる。カード欄内には、「形・色彩・光・香り・感情・イメージ」をキーワードとして記載し、生徒が〔共通事項〕を視点に自分の活動を振り返って考えられるようにする。ここに書かれた内容で、生徒全体に気付かせたいものは「今週のTweets」として美術室内に掲示し、積極的に紹介していく。

###### ウ 他者の見方や捉え方から表現を見つめ直す時間の設定

完成間近の作品を互いに見せ合い、自然物の香りが伝わるような作品になっているか確認することで、これまでの表現方法を見つめ直す時間を設定する。他者との交流を通して、自分が感じた香りのイメージと他者の抱くイメージの相違点に気付くことで、客観的に自分の作品を捉え、更により表現方法はないか意欲的に思考・判断させる機会としたい。また、作品の表現についてだけでなくイメージの多様性についても学ぶことができると考える。同じ自然物から受けたイメージでも、視点

を変えると違ったイメージがもてることを知ることは、見方を広げる素地を培うことにつながり、自分の作品に向き合うときに、より表現の幅を広げることができると思う。

## (2) 【共通事項】を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導

### ア 言葉とイメージを結び付ける鑑賞の場の設定

生徒が考えた言葉やイメージからつくった「色彩カード」をオノマトペ同様、パネルに展示し、自分のイメージによって自由に分類できる場を設定する。言葉や色彩を自分で分類したり、友人が分類したものを見たりすることで、イメージが広がり、幅広い表現方法を味わうことができると考える。

### イ 言葉とイメージを結び付ける鑑賞活動「香りの美術館」の工夫

完成した作品は、モチーフとなる自然物ごとや主題となる香りのイメージごとに分類して鑑賞活動を行う。どういう分類方法が作品をより際立たせるかを生徒に考えさせ、話し合わせることで、生徒は作品の主題となった香りのイメージや自然物の形や色彩により深く着目して鑑賞ができると考える。また、作品は見る側が「開く」という操作をして初めて鑑賞できる形態である。モチーフとなった自然物の名前を聞いてから鑑賞することで、モチーフのイメージを念頭に置きながら形や色彩に着目することで、互いの作品のよさや美しさ、面白さを味わわせたい。

## 5 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
① 日常における様々な色彩について関心をもち、よさや美しさ、面白さを主体的に感じ取ろうとしている。 ② 香りのイメージを伝えるためのよさや美しさ、面白さを表現することに関心をもち、主体的に構想を練ったり表現したりしようとしている。	① 色彩の組合せで感情やイメージを表現できることを知り、自分の思いに合った組合せを試している。 ② 香りのイメージを伝えやすくするための形や色彩、表現方法を試しながら、構想を練っている。	① イメージを大切に、用紙の特性や着彩の方法を考えながら、形や色彩のよさや美しさ、面白さにこだわって表現している。 ② 画材や表現方法にこだわりながら作品全体のバランスを考えて、香りのイメージを表現している。	① 自然物のよさや美しさ、面白さ、表現方法のよさを自分の価値意識をもって感じ取っている。 ② 作品から受ける香りのイメージを用紙の折り方や形、色彩のよさに起因しながら感じ取っている。

### (2) 指導と評価の計画（11時間扱い）

次	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準（方法）	【共通事項】の視点
1	1	○色彩の仕組みについて知る。 ・有彩色と無彩色 ・色の三要素 ・色彩の組合せ	関一① (観察, 学習カード)	身近なものの色彩の美しさや組合せの面白さに気付く。



1	2	○感情やイメージによって色の組合せを考える。	発一① (観察, 対話, 学習カード, 色彩カード)	色彩の美しさに関心をもち, 自分のイメージに合った色づくりをする。
	3	・イメージから色彩を考えるグループ活動をする。 ・言葉や香りのイメージに合った色彩を考え, 「色彩カード」を作成する。		
2	4	○自然物を観察し, 気付いたことをイメージスケッチとして描く。 ・自然物の外観や中身の様子を観察してスケッチする。 ・香りや形, 色彩から感じ取ったイメージを簡単な言葉で表す。	鑑一① (観察, 学習カード, イメージスケッチ)	自然物の形や色彩, 質感のよさや美しさ, 面白さに気付き感じ取ったことから自分のイメージを膨らませる。
	5	○自然物からイメージする香りや形, 色彩に合った構想を練る。 ・構成美の要素について知る。 ・アイデアスケッチをする。 ・表したい香りや形に合った, 用紙の折り方, 開き方を考える。	発一② (観察, 対話, 学習カード, 色彩カード)	自分の思い描くイメージを表す形や色彩の組合せを考え, 構想を練る。
	⑥	○香りのイメージに合った形や色彩の表現方法を追求する。	創一① (観察, 対話, 学習カード, 作品)	形や色彩にこだわって自分の思い描くイメージを表す表現方法を追求する。
	7	・下描きをする。	創一② (観察, 対話, 学習カード, 作品)	作品から受けるイメージを互いに伝え合うことで, 自分の表現方法について客観的に見つめ直す。
	8	・用紙を折ったり切ったりする。	関一② (観察, 対話, 学習カード)	
	9	・アクリル絵の具の基本的な使用方法を知る。	鑑一② (観察, 対話, 学習カード)	
	10	・互いの作品から受けるイメージを伝え合い, 更にイメージを伝達しやすい表現方法を考える。		
3	11	「香りの美術館」 ○作品の相互鑑賞を通して, 自然物のよさや美しさ, 面白さ, 表現方法のよさを味わう。 ・自然物や香りのイメージごとに話し合っ て分類する。 ・共通点や違いなどを考えながら, 鑑賞する。	鑑一① (観察, 学習カード, 鑑賞カード)	互いの作品のよさや美しさ, 面白さを形や色彩, 感じ取ったイメージの違いに着目して鑑賞する。

### (3) 本時の学習

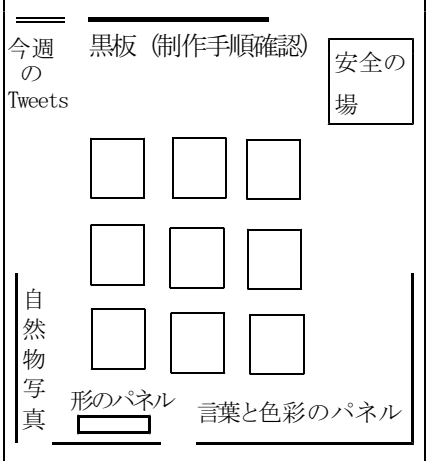
#### ア 目標

イメージを大切に, 用紙の特性や着彩の方法を考えながら, 形や色彩のよさや美しさ, 面白さにこだわった表現をすることができる。

#### イ 準備・資料

教師…カッターナイフ, はさみ, のり, 用紙(多種類), パネル, ビニルテープ, 学習カード, 色鉛筆, クレヨン, 歯ブラシ, スポンジ, 割り箸, 綿棒等  
生徒…イメージスケッチ, アイデアスケッチ, アクリル絵の具セット, 筆記用具

ウ 展開（第6時）

学習活動・内容	指導上の留意点、◎評価、◇言語活動の工夫、~~~~は〔共通事項〕の視点から
<p>1 本時の学習課題を確認する。 香りのイメージを形や色彩に表そう。</p> <p>2 制作活動をする。</p> <p>(1) 形や色彩、質感からイメージを確認する。</p> <p>(2) 形や色彩を試す。</p> <p>(3) イメージに合った材料を組み合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切る、ちぎる、裂く</li> <li>・折る、丸める、曲げる</li> <li>・貼る、つなげる</li> <li>・塗る、吹き付ける、浸す</li> </ul> <p>(4) 形や色彩、質感からイメージを表現する。</p> <p>〔美術室の学習環境図〕</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題を確認し、各自が立てた目標を意識して活動に向かわせることで、生徒の主体的な活動を促す。</li> <li>・本時の目標が立てられない生徒には、どこまで制作を進めたいのか、具体的な制作順序から考えさせ、その上でどんな作品につくり上げたいのかイメージをもたせる。</li> <li>◇制作に入る前に、自分の主題に合ったイメージを形や色彩などを基にイメージスケッチやアイデアスケッチ、パネル等を使って確認させる。</li> <li>◇形や色彩を表した簡単な言葉や生徒がつくった「色彩カード」をパネルを使って提示しておく。その際、分類用のビニルテープを用意し、自分のイメージに合わせてそれらを自由に分類できるようにする。</li> <li>・「安全の場」で使用するカッターナイフなどの刃物類の安全指導をし、全員で確認する。</li> <li>◎イメージを大切に、用紙の特性や表現方法を考えながら、形や色彩のよさや美しさ、面白さにこだわって表現している。</li> </ul> <p>&lt;創造的な技能&gt;（観察、対話、学習カード、作品）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現方法が決められない生徒には、様々な用具を使った表現の効果を紹介し、自分のイメージに合ったものを選ぶことができるようにする。</li> <li>・「安全の場」では、生徒が自由に切ったり、折り曲げたりできるように、再利用紙を用意しておく。</li> <li>・折りの形の面白いものや美しいものは、できるだけパネルに展示し、生徒が紙の造形のよさや美しさ、面白さに気付けるようにする。</li> <li>・各制作段階での生徒のつまずきは、前時の学習カードから事前に把握しておき、積極的に支援していく。</li> <li>・イメージの中の形や色彩を具体的に表現できる材料や表現方法について、対話やアイデアスケッチとの比較によって導き出す。</li> <li>・カッターナイフやはさみを使用している生徒には、安全な使用を呼び掛け、常に注意して活動を観察する。</li> <li>・よりイメージに近付けるため、制作の一つ一つの段階を「どうすれば目的の形や色彩にできるのか。」、「なぜそうするのか。」を考えさせてから具体的な指示をしていくことで、生徒が見通しをもって制作する素地を養う。</li> </ul>
<p>3 本時の活動を振り返り、形や色彩の視点からまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張っている生徒や形や色彩のよさや美しさ、面白さなどを積極的に取り上げながら、「分かる・できる」喜びを味わわせることで、次時の活動への意欲を高める。</li> </ul>

## 6 分析と考察

### (1) 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導

#### ア 形や色彩、香りのイメージを話し合う活動の工夫

色彩についての基礎的・基本的な知識を学習した後、「色紙カード」を活用し様々な視点から色彩について考えさせた。資料1はその様子である。色彩のもつ温度感や年齢イメージなどから始まり、テスト結果を返されたときの気持ちや生活音、香りをイメージした色彩について考えさせた。生徒は、家族や友人、経験からイメージした色彩について積極的に話し合っていた。学習カードには「人によって考え方が違うんだなと思った。もっと考えたい。」のように、自分のイメージと違う色彩を挙げている生徒の理由を聞いて考え直したり、自分との違いに驚いたりしている記述が多かった。また、「カードにない色彩で表現したかった。」と既製の色彩にはない自分独自の色彩を考え始めている生徒も多く見られた。

資料1 「色紙カード」を使う様子



#### イ 言葉からイメージを引き出す場の工夫

香りを意識させた制作活動に移行する導入として、様々な場面や物からイメージする香りを基に、資料2のような「色彩カード」を作成した。最初は原色による表現が多かったが、徐々に混色や筆のタッチを生かしたカードを作成する生徒が増えてきた。香りから色彩をイメージするのは難しいという生徒には、できあがった色彩から場面や香りを想像させたり、状態を示すオノマトペを紹介したりすると、より活発な活動が見られた。カードには資料2の例のように、生徒の生活に根ざした言葉が多く見られた。

資料2 作成した「色彩カード」と言葉



例：「お母さんのつくったお弁当」  
・ほんわかしたにおい  
「ケンカ」  
・ほこりくさい感じ  
「友達」  
・ポカポカしたにおい

また、毎回使用している学習カードには、形や色彩を視点に気付いたことや感想、疑問などを記入させた。1時間の授業内では生徒全員に声を掛けることは難しいが、学習カードを通して、教師がこれまで気付かなかった生徒の作品への思いやつぶやきを読み取り、次時の適切な指導・助言に生かすことができた。学習カードに記入された内容には、学年を通して共有させたいものもあったので、資料3のように「今週のTweets」として美術室入り口に掲示した。生徒は、友人の言葉を熱心に読んだり、自分の言葉が書かれていると

資料3 美術室入り口の「今週のTweets」



喜んだりしていた。以前から学習カードは活用しているが、内容は活動の反省が多かった。しかし、〔共通事項〕の視点を示したり生徒の記述を掲示したりしたことで、気づきやアイデア、制作したり見たりする視点など記述の内容に変化が見られ、美術の基礎的な能力を伸ばすことにつながった。

#### ウ 他者の見方や捉え方から表現を見つめ直す時間の設定

技能面に不安のある生徒は、仕上がりの美しさよりも時間内に完成させることに重点を置き、自分の主題がおろそかになりがちである。本題材は、他者に「香りのイメージ」を伝えることを目的としているので、完成間近な生徒には積極的に友人の意見を聞くことを勧めた。見せる側は見てくれた「友人の意見」を、見る側は「友人の作品のよさ」をそれぞれ参考にするよう指示し、より客観的に自分の作品を見つめ直す機会とした。初めは仲のよい友人を中心に作品を見せ合っていたが、自分の思い通りのイメージが返ってこない、学級全体を回って聞く生徒の姿が見られた。作品を見る側も見せる側も互いの意見が違ふとその根拠を聞いたり自分の考えを述べたりしていた。特に同じモチーフ同士の場合は紙の開き方や向きにまでこだわって話し合う姿が見られた。また、どうやったらイメージが伝わるかと、作品を開いたり閉じたりしながら考え込む生徒や、パネルを確認したり表現効果を変える用具や材料を探したりする生徒も見られた。題材後の意識・実態調査において、発想や構想の場面で「友人の意見」や「友人の作品」が役に立ったと回答した生徒が23人、作品の仕上げの段階では全員が役に立ったと回答していることから、生徒間の交流が思考・判断する機会となったと考える。

### (2) 〔共通事項〕を視점에言語活動を工夫した鑑賞の指導

#### ア 言葉とイメージを結び付ける鑑賞の場の設定

オノマトペを含む言葉や「色彩カード」は美術室の後方にパネル展示し、生徒が自由に鑑賞し、イメージを膨らませる手掛かりとした。カードはマグネットで貼り替え可能とし、ビニルテープで生徒の自由な発想で分類できるようにした。活動の前半では、単にカードに書かれている言葉や色彩を見ている生徒が多かったが、活動が進むにつれて色別やイメージ別に並べ替える生徒が出てきた。また、他の生徒が分類したものを更に変更する生徒もいた。制作途中で自由に鑑賞してもよいことを伝えていたが、並べ替えは主に授業前後に見られた。授業中の後半に、色彩に悩む生徒や友人の意見を聞いてよりイメージを伝えやすい表現効果を考えている生徒がパネルを参考にしていった。

資料4 分類された「色彩カード」



#### イ 言葉とイメージを結び付ける鑑賞活動「香りの美術館」の工夫

まず互いの作品を一通り鑑賞し合ってから、「香りの美術館」のための展示方法について話し合った。鑑賞活動では、初め作品から受けるよさや美しさ、面白さに感嘆



の声を挙げている姿が見られた。友人の作品から感じ取ったことは、付箋に書き交換させた。資料5はその記述の一部である。①のように色彩を視点に見たり、②のように形を視点に見たり、③のように色彩から香りを感じ取ったりしていることが分かる記述が多く見られた。

その後、話合いで挙げた形や色彩、香り、作品の折り方などの分類の視点に従って、生徒が話し合いながら作品を並べ替え鑑賞した。同じグループの作品の相違点を表現方法から考えたり、同じグループに分類された中で同じモチーフがあると、積極的に作品同士を並べ見比べていたりする姿が多く見られた。ピーマンをモチーフにしたグループからは、「どれが一番苦い香りがするか。」、「シャキシヤキとした歯ごたえがするか。」などの会話が聞かれ、自然に作品の工夫点や表現の根拠を伝え合ったり批評し合ったりする姿が見られた。鑑賞の様子と鑑賞後の感想を資料6に示す。〔共通事項〕を視点に鑑賞することができたことが分かる。

#### 資料5 付箋の記述

- ・背景を黒にしたから赤が目立っていた。トマトだと分かった。①
- ・ギザギザの線や複雑な折り方がピーマンの形に似ていると思う。②
- ・実際の色ではないのに、カボチャの色が見えた。香った。③

#### 資料6 鑑賞の様子と感想



- ・開けたときに本当ににおいがして、びっくりした。自分には思い付かない色だった。
- ・同じモチーフなのにみんな違う。折り方だけでも感じが伝わるんだと思った。
- ・香りって広がるんだ。
- ・緑がこんなにあると思わなかった。
- ・モチーフを見ている視点が面白い。

## 7 授業研究の成果と課題

生徒が苦手としていた発想や構想の場面で、アイデアを起こしそれを形づくるまでに何が必要か、生徒の思考の過程を思い描きながら〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した指導を行った。色彩について学ぶ場面では、知識を習得させるだけでなくイメージを喚起させるためにいろいろな言葉から色彩を連想する活動を取り入れたことで、生徒は色彩を身近に感じ、自分だけの色彩をつくり上げようとした。それらをパネルに掲示し、いつでも振り返られる場や用紙や用具を自由に試せる場を設けたことも、生徒が思考・判断することに効果があったと考える。また、目には見えない「香り」を主題にすることで、生徒が既存概念を外して自由に考えられる糸口になったと思われる。特に、作品を折って開くことで「香りのイメージ」を伝えるようにしたことは、鑑賞する側を常に考えた表現活動となり、生徒間の積極的な交流や思考を促すことができた。完成した作品には、技能面での指導が課題として残るが、生徒が最後まで作品に向き合い、自分のもつ「香りのイメージ」を伝えようとしたことは本研究の大きな成果である。

さらに、教師がこれまで技能面の指導を重視し、生徒一人一人の思いをあまり汲んでいなかったことに気付き、授業の中で言語活動を捉えるとき、話合い活動や発表に目が行きがちだったが、生徒一人一人の言葉を大切に拾い、どれだけ丁寧に返せるかも大切な言語活動の一つであると認識させられた。

今後の課題としては、「A表現」(1)の内容でも思考・判断しながら表現することができるような展開の工夫と学校全体で交流できる鑑賞方法について研究していきたい。

### 3 研究のまとめ

#### (1) 成果

〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を通して、思考・判断し、表現する力を育てる図画工作・美術科学習指導の展開について研究を進めた結果、次のような成果が見られた。

ア 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現の指導について

表現の指導において、〔共通事項〕を視点に、児童生徒が考えたことをかいたり伝えたりする活動を位置付け工夫した。

材料や用具、場所に十分にに関わり、形や色、組合せ、動きや奥行きなどの造形的な特徴を捉える場を設定したことで、児童生徒は試しながら表したいことを思い付き、自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料や用具などを選択し創意工夫して表現することができた。

また、〔共通事項〕を視点に、アイデアスケッチについて話し合ったり、言葉から形や色などをイメージし、かいたり伝え合ったりする活動を位置付け工夫したことで、児童生徒は形や色などに対する一人一人の感じ方の違いに気付き、自分が形成したイメージをより明確にすることができた。これらの活動を支えるために学習カードを工夫し活用したことは、児童生徒の発想や構想の能力を高めるとともに、学習過程に沿って思考・判断している様子を教師が適切に評価することにつながった。

イ 〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した鑑賞の指導について

鑑賞の指導において、〔共通事項〕を視点に、児童生徒が自分の思いを語り合ったり価値意識をもって批評し合ったりする活動を位置付け工夫した。

友人と関わる活動を位置付けたり、児童生徒主体の鑑賞会を充実させたりしたことで、児童生徒は形や色、組合せやイメージ等を言葉と結び付けながら、共感的に作品のよさや面白さを感じ取ることができた。

また、〔共通事項〕を視点に、自分の思いや考え、表現の工夫について書いたり話し合ったり、価値意識をもって批評し合ったりするなどの言語活動を工夫した鑑賞活動を題材全体を通して展開したことで、児童生徒は形や色、材料などによる感じ方の違い、表し方の変化、表現の意図や特徴などを捉え、それらを表現に生かそうとすることができた。

以上のことから、〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を工夫し具体的な手立てを講じたことは、児童生徒に、思考・判断し、表現する力を育てることにつながったと考える。

#### (2) 課題

表現及び鑑賞の活動において、形や色、イメージなどの〔共通事項〕を視点とした学習指導について更に研究を進める。また、児童生徒が自分の感覚や行為を通して捉えている形や色は何か、自分なりのイメージをどのようにもって学習しているのかなどを授業のプロセスにそって的確に把握し、学習指導の改善に生かすことのできる学習評価の在り方について研究する。

<引用文献>

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成20年8月

文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術編」平成20年9月

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年1月

**関係者一覧**

1 研究協力員

坂東市立逆井山小学校	教諭	飯田 政子
石岡市立東小学校	教諭	中島 淳
ひたちなか市立佐野中学校	教諭	大澤 恵子

2 茨城県教育研修センター

所長	谷田部 佳見
教科教育課 課長	佐藤 誠
同 指導主事	近重 敦子